

1P74

保育施設において保育中に実施したインフルエンザワクチン集団接種に関する保護者アンケート調査

伊東 宏明、美里 周吾、古谷 直子、石井 麻由美

亀田総合病院

【背景】

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、医療機関内での3密状態を避けること、個別接種による保護者負担軽減を目的に、それぞれ園児数・世帯数が95名（93世帯）、372名（285世帯）の当院関連の2保育施設でインフルエンザワクチン集団接種を行った。園長を保護者代理とする委任状を取得し、計6回の訪問で保育中に実施した。同試みに対して保護者がどう感じたか、接種率向上に繋がるのかの検討を行った。

【方法】

集団接種利用の有無に関わらずすべての世帯（1世帯1回答）に対して、アンケートを実施した。

【結果】

回収率は69%で、保護者のどちらかが当院関連職員である割合は73%、医療従事者は68%であった。集団接種を利用しなかった11%のうち8%は他院で接種していたが、小学生のきょうだいに合わせるためなどの都合理由のほか、同席することは保護者の責任との回答もあった。保育中の集団接種は便利である、またCOVID-19感染曝露リスクを低減できたと回答したのはそれぞれ98%、90%であった。保護者が同席しない、また病院外での接種であることに不安を感じなかったと回答したのはそれぞれ85%、90%であった。保護者が医療関係者か否かによって、保護者が同席しないことや、病院外での接種であることに不安を感じる割合に差異は認められなかった。自由記載欄には“大好きな保育園での注射により保育園自体が嫌いにならないか心配だった”などの不安の声もあったが、一方で“友達と一緒に受けられたことで泣かなかった”など子供の成長を感じたとの意見もあった。2つの保育施設におけるワクチン接種率はそれぞれ90%、91%であり、後者においては2年前に園独自の全数調査による85%と比較して高値であった。

【考察】

一定の不安はありつつも、通いなれた園にいつも通りに預ける保育中であったこと、複数回の接種機会を設けたことから、子育て支援とともに接種率向上につながった。病院関連保育施設という環境ではあるが、保護者が医療者か否かに関わらず集団接種への安心感・利便性を示唆するアンケート結果であったことから、今後他の保育施設への拡大も期待できる。

【結語】

未就学児への感染曝露リスクを低減すること、子育て支援になることという目的に対し高い満足度を得ることができた。